

プレミアムインタビュー

「ひや、ひや、ひやの、ひや・きおーがん」のCMソングは、多くの人々の記憶に残っているだろう。赤ちゃんの夜泣きやかんむしに効く薬として、樋屋奇応丸は大阪・天満の地に生まれ、400年以上も続いてきた。昨年9月、歴史ある樋屋製薬(大阪市北区)の16代目に就任した坂上聡太社長にこれまでの歩み、そして未来について聞いた。(佛崎一成)

関西で親しみのある「ひや・きおーがん」の新社長

樋屋製薬 社長兼COO 第16代 坂上 忠兵衛

坂上 聡太さん



「将来に渡って小児五疳薬(こかんやく)を残していくのがわれわれの責任」と話す坂上社長



赤ちゃんから大人まで服用できる「特撰金粒 樋屋奇応丸」第2類医薬品

明治以降も複数

樋屋製薬の歴史は古い。創業は1622年。豊臣家が滅亡した大坂夏の陣からしばらくしたころだ。初代の坂上忠兵衛が大阪・天満で「奇応丸」を作りはじめた。400余年。私で16代目になる。

遺唐使の時代にまで歴史をさかのぼる必要がある。遺唐使は船で使節団を中国(当時の唐)に送り、中国文化や仏教的な教えなどを日本に持ち帰る役目を担っていた。その中で、753年に中国から鑑真を連れ帰ったときに、日本に太鼓を持ち込んだと言われている。その太鼓は奈良の東大寺に置かれていた。

大阪天満宮とは初代から付き合いがあり、2代目の1689年には記帳台を寄進している。今も現物が大阪天満宮に存在しており、大きな机ほどのサイズで迫力がある。昨年9月に社長に就任されたが、歴史が長いだけに100年スパンでの経営を考えておられると思う。どのように経営していくのか。

「遺唐使」の時代から続く薬、未来へ継承していきたい。樋屋製薬は、夜泣きやかんむしに効く薬が存在することを、まずは現代の子育て世代や、これから子育てをされる未来の世代に知ってもらう必要がある。こうした背景を踏まえ、先ほどの企業として何をやるかという話をさせていた。奇応丸という物語自体は変えない。ただ、伝え方については時代に合わせたコミュニケーション手法に変えていかなければならない。

例え、ヒヤドットは妊娠中や出産後、または乳幼児のデリケートなお肌をケアする乳液クリームなのだが、コアターゲットは妊娠中の人となる。さらに、次期商品に産後ケア、具体的には授乳関係の製品開発も進めている。つまり、妊娠された頃から樋屋製薬のお付き合いを始めてもらい、出産後のケア、そして赤ちゃんの夜泣きへと、奇応丸に繋がる道筋をつけていこうと考えている。

日本の出生数が現在70万人なので、少なくともそこには認知を上げ、奇応丸を知ってもらえる流れを作りたい。なるほど。コア製品は奇応丸だが周辺の商品を整えて物語を回していくことで、結果的に奇応丸の普及を狙おうということだ。

そのために、妊婦の相談相手となる助産師、産婦人科医、看護師を味方につけた。現在、学会などに樋屋製薬として出させてもらっている。その場で、薬局やドラッグストアで処方せんがなくとも購入できるOTC医薬品に、赤ちゃんの夜泣きなどに効く薬があるのを知っていますか？

先ほども話したが、樋屋奇応丸は400年も日本人に親しまれてきた伝統薬だ。対象となる若い世代へ継続的に認知を広げる仕組みをつくり、小児五疳薬を日本の未来に継承していくことがわれわれの使命だと考えている。

樋屋製薬の概要
初代坂上忠兵衛が1622年に大阪・天満で「奇応丸」の創製を開始。1724年の享保の大火、1827年の大塩平八郎の乱、1945年の大阪空襲という歴史的な出来事で、社屋が3度消失する事態にも遭った。1897年に樋屋合資会社を設立(出資金8千円)し、近代的な会社の形として再出発。1916年には「奇応丸」から小児良薬「樋屋奇応丸」に処方名を正式に変更。43年には樋屋合資会社を解散し、樋屋製薬株式会社を設立(資本金60万円)。59年に第1回ABCミュージカル・スポーツ・コンクールでの優勝作品としてCMソング「樋屋奇応丸」がスタート。2022年には創業400周年を迎えた。

「遺唐使」の時代から続く薬、未来へ継承していきたい

他にあるのか。夜泣きという症状は、赤ちゃんがたった今、体や環境に不快感を感じているのが原因になっていることもある。昼間の刺激が影響しているケースもある。つまり、原因はあやふやというところだ。原因が特定できないから西洋医学での対症療法は難しく、やはり東洋医学のアプローチが多くなっている。SNSなどを見ていると、夜泣きに関する悩みを抱える人は多いようだ。夫婦共働きが主流となり、地方から都会に出てくる人々も増えたので昔のように子どもを世話する親に頼ることも難しくなった。共働き夫婦が二人で子どもの面倒を見なければならぬ状況で、悩みの約半数は、赤ちゃんの寝かしつけだったり夜泣きだったりする。それが原因で、眠くも寝られない仕事をしたくてもできない状況に追い込まれている家庭が多い。

育児に笑顔を。 樋屋製薬 Since 1622 ひや・きおーがん
第2類医薬品
子育て中のお悩みに「夜泣き・胃腸虚弱・かぜひき」
かぜ薬: ヒヤこども総合かぜ薬M (1才以上15才未満), ヒヤこどもかぜシロップS (3か月以上1才未満)
せき薬: ヒヤこどもせきどめチュアブル (5才以上15才未満), ヒヤこどもせきシロップN (3か月以上15才未満)
解熱薬: キオフィーバ(こども解熱坐薬) (1才以上12才未満)
鼻炎薬: ヒヤこども鼻炎薬AL (1才以上14才未満), ヒヤ鼻炎スプレーAL (1才以上大人まで)